

指導している学校で携帯だけ別はおかしいのではないか」など、両校の教員たちからさまざまな意見が出ます。結局、学校内では「適切」な使い方をする限り許されています。しかし、一般には何を持って「適切」とするかが難しい。本校ではそのよりどころが「5 Respects」なのです。

授業中に携帯でメールをしている生徒がいたら当然注意されます。まず、「学習を大切に」していないし、ひいては「自分を大切に」していない。先生の説明や友達の発言に耳を傾けていないので、「リーダーシップを大切に」していないし、「他の人を大切に」していないわけです。これは瑣末な例ですが、さまざまな場面で生徒たちは自分で考え行動する必要があり、「5 Respects」がその指針となります。ある生徒が、千里国際学園の中の自由について「もっとも厳しい自由」という表現をしていましたが、確かに外から規制されるより大変かもしれません。一般の細かい校則が外からのコントロールとすれば「5 Respects」は内からのコントロールと言えるでしょう。外からのコントロールはそれが外れると無軌道になりがちですが、内からのコントロールは学校を離れてもその人の行動の原型として生き続ける可能性があります。

「5 Respects」を逸脱して問題が起きた場合は、校長・カウンセラー・教頭と関係教員で話し合います。その際も単に罰を与えるのではなく、原因を分析してその大本を絶つ努力をします。カウンセリングの専門家が常駐する学校のすぐれた点です。分析の結果次第では、学校の環境やご家庭の環境を見直す必要があります。友達関係の改善や家族カウンセリングが必要に応じて行われます。校長が時々保護者の方々に「家庭の責任か学校の責任か、といった押しつけあいではなく、お互いが協力して大切なお子さまを育てましょう」と話しますが、その通りです。片方だけでは解



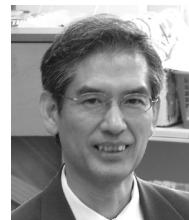
決しないことが実にたくさんあるものです。

最近、親の役割として“柔らかい壁”ということが言われます。思春期の子どものエネルギーの向かう先はまず親ですが、物分りが良すぎると却って不安をかきたて、鉄のような固さだとはね返されてあらぬ方向に向かいます。毅然とした態度の中にも温かみのある親をイメージした表現だと思います。千里国際学園は、学園全体が無意識のうちに、この“柔らかい壁”を目指しているのかもしれない。

平尾 公美洋

ひらお きみひろ

千里国際学園 教頭



1953年生まれ。千里国際学園には創立の1991年より勤務。1999年より同校教頭。アメリカで行われるINFOE主催の「教育フェア」にはこれまで何度か参加、千里国際学園の教育について皆さんにお話をさせていただくと同時に、多くの皆さんと教育相談という形でお会いしております。

千里国際学園 中等部・高等部

〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-16

電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055

www.senri.ed.jp

admissions@senri.ed.jp

編集長から一言

賛成します。何度も千里国際学園を訪ねましたが、本当に生徒が生き生きしています。

かつての私自身の教え子に、その秘密をそっと聞いてみたことがあります。「だって、自由で、楽しいんだもの」と明るく答えてくれました。

5つのRespectを決まりとして押し付けるのではなく、校長先生と一緒に考え、自分達のルールとして自覚させていく。自分のためのルールになると、生徒は、自由を感じます。そして、楽しくなります。

